

長野県立美術館

NAMコレクション 2023 第Ⅲ期

長野県立美術館では、「NAMコレクション 2023 第Ⅲ期」を下記のとおり開催します。ぜひ取材をお願いします。取材を希望される場合は、当館広報担当まで事前にご連絡ください。

NAMコレクション 2023 信州出身の作家たちや、信州の風景が描かれた作品を中心に形成された、長野県立美術館のコレクション。一年を通して、洋画、日本画、工芸等さまざまなジャンルの収蔵品を展示します。

1 会 期 2023年(令和5年)7月27日(木)～9月19日(火)

*休館日=毎週水曜日

2 会 場 長野県立美術館 2F コレクション展示室

3 開館時間 9:00～17:00 (展示室への最終入場は 16:30 まで)

4 観 覧 料 (本館・東山魁夷館共通)

一般 700 円、大学生及び 75 歳以上 500 円

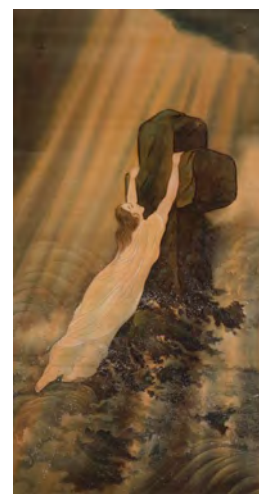
高校生以下又は 18 歳未満無料

5 内 容

NAMコレクション 2023 第Ⅲ期では、同時期に開催される企画展にちなんだ特集展示を設けます。「とびたつときー池田満寿夫とデモクラートの作家」(9/9～11/5)で取り上げられる1966年以降の池田満寿夫の軌跡を、「日本回帰」として陶芸制作を始める1990年頃までに焦点をあてて紹介します。また池田と同様に西洋美術の影響を受けながらも、時代の流れの中で日本に想いを巡らせた美術家たちの作品も見逃せません。併せて、今年で生誕150年を迎える、松本出身の西郷孤月や、「葛飾北斎と3つの信濃ー小布施・諏訪・松本ー」(7/1～8/27)に関連する寄託作品も展示します。



河野通勢《二人花魁》



西郷孤月《主の救い》

■展示構成

①特集展示：池田満寿夫の「日本回帰」

池田満寿夫は、名だたる国際版画展で受賞を重ねた1966年以降、自由な線描を主とした表現から、絵画的な描写による構成へと版画制作を展開していきます。自身の版画が「日本的」ではないと評されることを嫌っていた池田は、1983年頃から「日本回帰」と称して、天平文化や琳派の表現を作品に取り入れ、陶芸のオブジェを制作するようになります。本特集展示を通してその軌跡をたどります。

②絵画・彫刻・陶芸のコレクションから

大正リアリズムの鬼才と称された河野通勢をはじめとして、小山敬三、島崎鷄二、須山計一らによる作品変遷から、西洋と日本のはざまに美術家が受けた様々な影響や関係性を見つめます。また、デモクラートに先駆ける前衛芸術の取り組みであった四耕会や走泥社に参加し、陶のオブジェの先駆者である林康夫らの作品も紹介します。

■関連イベント

担当学芸員によるギャラリートーク (申込不要)

日時：8月19日(土) 14:00～ 場所：コレクション展示室 参加費：無料 (ただし観覧料は必要)

●報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室 〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(善光寺東隣)

TEL:026-232-0052/FAX:026-232-0050/E-MAIL:nam-pr@naganobunka.or.jp

※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえ、メールまたはファックスにてお申し込みください。

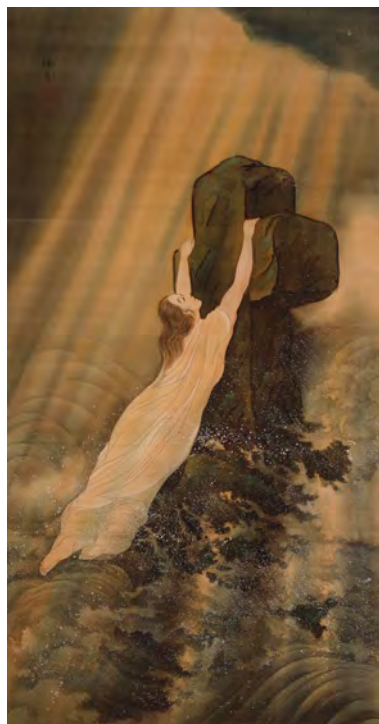
広報用画像



①河野通勢《二人花魁》



②島崎鶏二《水》（寄託）



③西郷孤月《主の救い》

<別紙>

長野県立美術館 行 メール: nam-pr@naganobunka.or.jp FAX: 026-232-0050

広報用画像申込書

NAM コレクション 2023 第Ⅲ期

会期: 2023年7月27日(木) ~ 9月19日(火)

■本展覧会の広報用写真を用意しております。ご希望の写真の左欄に○をつけて、メールまたはファックスにてお申し込みください。写真はデータにてお送りします。

○をつけて ください		番号	画像名
	①		河野通勢 《二人花魁》
	②		島崎鶏二 《水》 (寄託)
	③		西郷孤月 《主の救い》

●貴社についてお知らせください

貴社名 / 媒体名 (雑誌、番組名等)

ご担当者名 / 所属部署

ご住所 〒

電話 / FAX

E-mail

ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。 月 日 () に発行、または放映予定

※掲載紙・誌を1部ご恵贈いただければ幸いです。